

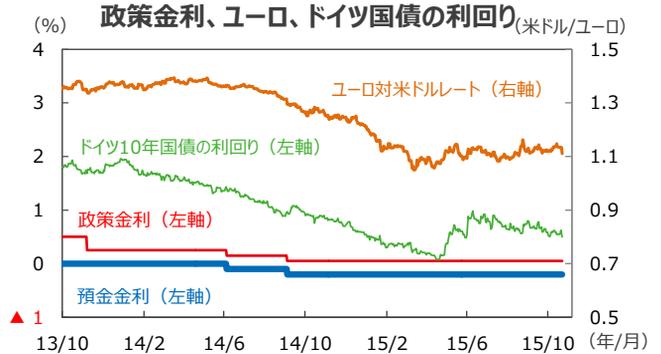
今日のトピック

## ECBは12月に追加金融緩和へ

### ポイント1 政策は現状維持

#### 12月にも追加緩和へ

- 欧州中央銀行（ECB）は22日、政策金利、預金金利を、それぞれ0.05%、マイナス0.20%に据え置き、月600億ユーロの国債などを購入する量的金融緩和策を2016年9月末まで継続する方針を維持しました。
- また、声明文では、景気や物価の下振れ懸念が強まっており、12月の理事会で緩和度合いを精査することに言及し、追加金融緩和を示唆しました。



(注) データは2013年10月1日～2015年10月22日。政策金利はMain Refinancing Operations 金利。預金金利はDeposit Facility 金利(翌日物)。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

### ポイント2 デフレの脅威に対処

#### 市場は、株高、ユーロ安の反応

- ドラギ総裁は会見で、デフレによる実質債務増加が経済の下振れにつながるリスクに言及し、9月に前年同月比▲0.1%となったインフレ率を、目標である2%近くに引き上げる重要性を強調しました。
- 12月にも追加金融緩和が実施されるとの示唆を受けて、株価は上昇、国債利回りは低下、ユーロは対米ドルで下落の反応となりました。

#### 12月理事会で予想される追加金融緩和

予想される措置	現行
量的緩和の期限延長	2016年9月末期限
量的緩和の規模拡大	毎月600億ユーロ
量的緩和の購入対象拡大	国債など
中央銀行預金金利の引き下げ	マイナス0.2%
長期資金供給オペ (TLTRO) の期限延長や条件緩和	2018年9月末期限

(出所) 各種報道を基に三井住友アセットマネジメント作成

#### 今後の展開

### 焦点は、緩和の有無から、追加金融緩和の内容へ

- ドラギ総裁の会見で、2～3人のメンバーから今回の理事会で追加緩和に踏み切るべきとの示唆があったことが明らかにされました。12月の理事会では、経済と物価の見通しが見直される見込みであり、新たな見通しに基づき、追加金融緩和の内容が話し合われると見られます。
- ドイツ国債の利回りは、今後も緩やかな金融緩和が継続するため、低位での推移が見込まれます。為替市場では、ユーロが弱含むと見られるものの、対円では日銀の追加金融緩和への期待もあり、方向感のない展開が見込まれます。株式市場では、金融緩和と堅調な企業業績を背景として、底堅い展開が予想されます。

#### ここもチェック!

2015年 9月29日 最近の指標から見る欧州経済 (2015年9月)  
2015年 9月18日 米国の金融政策 (2015年9月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。